

基盤共同研究 日本常民文化研究所所蔵資料からみる フィールド・サイエンスの史的展開

期間：2016年～

〔所員〕 泉水英計 小熊 誠 角南聡一郎 高城 玲 丸山泰明

〔客員研究員〕 全京秀

新所蔵資料の整理と旧蔵資料の活用

泉水 英計

本共同研究は、民俗学および文化人類学そしてそれらの隣接諸学をフィールドサイエンスとして総体的にとらえ、神奈川大学日本常民文化研究所（以下「常民研」）の所蔵資料を基礎にして、その歴史的展開を明らかにすることを目的とする。同時に、常民研の基盤共同研究のひとつとして、現物資料の整理やデータ化、目録作成と、常民研と関係の深い学術機関での調査および連携事業を通じて所蔵資料に関する情報を充実させることにより、所蔵資料の研究資源化を推進するという役割も担っている。

このような目的のもと、2021年度は、（１）川田順造元教授の個人文書の整理と（２）人間文化研究機構国立民族学博物館（民博）の所蔵資料との連携に向けた作業をおこなった。

（１）川田順造元教授は、おもに西アフリカをフィールドとした研究により国際的な名声を得た文化人類学者であり、令和３年（2021）度文化勲章を授与されその学術的な功績は一般にも周知されている。長年にわたる学術調査や執筆活動のなかで膨大な量の書籍、書類、写真および民具類が収集され、ながらくご自宅にて管理されていたが、

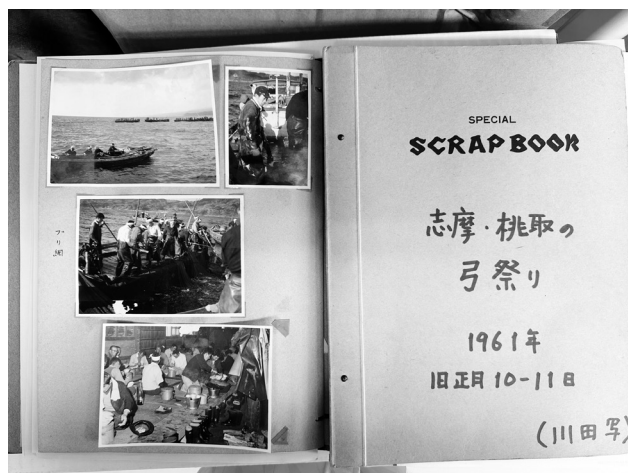


写真1 三重県志摩地方調査アルバム（1961年）（川田順造資料）

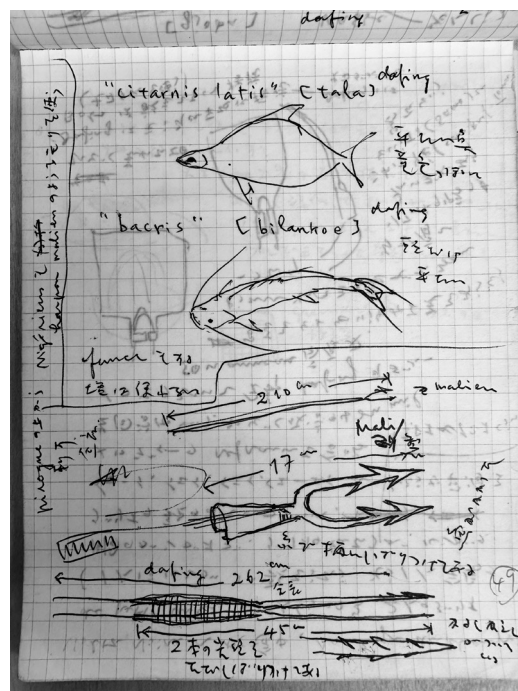


写真2 ブルキナファッソ国デドウグ地方調査フィールドノート（1974年）（川田順造資料）

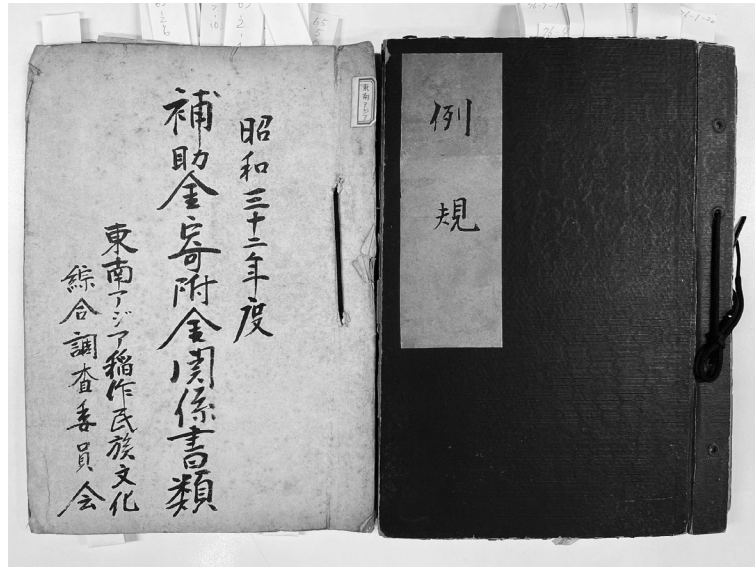


写真3 東南アジア稲作民族文化総合調査寄附金関連資料（民族学振興会資料）

将来の研究用資料として常民研が寄贈を受けることになり、2020年2月に段ボール箱137箱分の資料を神奈川大学横浜キャンパス内の一室に移送した。2022年度中には追加の寄贈があり、現在172箱となっている。これらを順次開封し、内容物の精査、荒目録の作成、フォルダ分けなどの整理作業をおこない、向こう3年間を目処に、研究利用が可能な形に整えることを目標に作業を進めている。

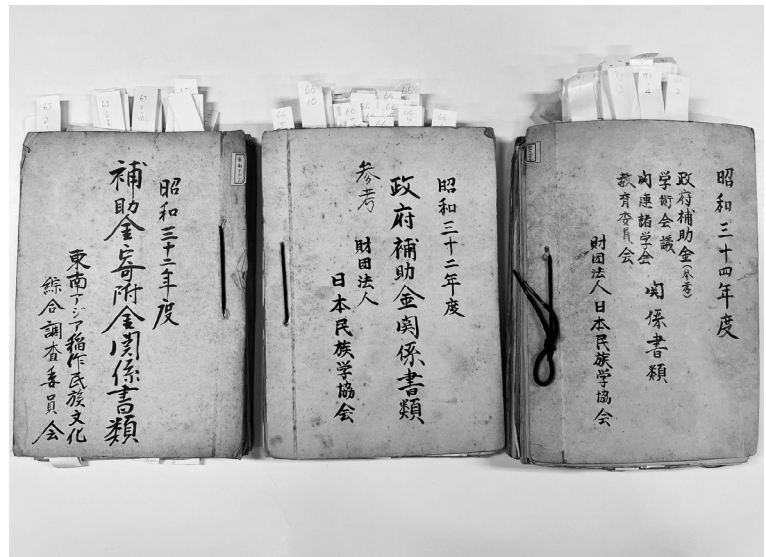


写真4 東南アジア稲作民族文化総合調査補助金関連資料（民族学振興会資料）

（2）常民研の所蔵する「民族学振興会資料」中には、「第一次東南アジア稲作民族文化総合調査（1957～58年）」調査団を組織・派遣した日本民族学協会の事務的文書が含まれている。一方、当時の団員が撮影した写真資料が、日本民族学協会から旧文部省史料館を経て、現在は国立民族学博物館（民博）に数千点ほど保管されている。これら写真資料のうち、タイの写真資料800点弱に関しては、民博の「フォーラム型人類文化アーカイブズの構築に基づく持続発展型人文学研究の推進」プロジェクトの一環として「第一次東南アジア稲作民族文化総合調査のアーカイブズ構築——タイの写真資料を中心に」が現在進められている。昨年度の予備調査を踏まえ、常民研の所蔵する資料との相互参照が可能となるよう検討を進めている。

■ 2022年度の活動

○川田順造氏所蔵資料の受入れ 2022年6月19日 泉水英計・高城玲

○川田順造氏所蔵資料目録作成 2022年5月～2023年3月 小林瑞葉・小袋華乃子（学部生）、余瑋（院生）